



1. LDKのなかに畳空間があれば、冬場はここでこたつを出すことも可能。季節に応じた使い方ができます。
2. 和室の建具もすべて造作。ゆったりした床の間には間接照明を取り付け、さらに奥行きを感じられる。
3. 玄関前の軒下を深くとり、玄関への雨風をブロック。軒天のあしらも和建築らしく上質。
4. 杉の腰板が美しい木目を浮かび上がらせて。棚もすべて造作にしており、統一感のある空間に仕上がっています。
5. 杉板を用いた造作の靴箱や、天井にも杉の一枚板を使うなど、上質な木の存在感が玄関を濃とした印象に。
6. 1階の洋室は防音、床補強を施してピアノルームに。主に長男が使用しており、ときには家族に練習の成果を披露。
7. 道路から見上げると、屋根が空へ伸びているように見える迫力のある外観。6年経ち腰板の色も落ち着いた印象に。

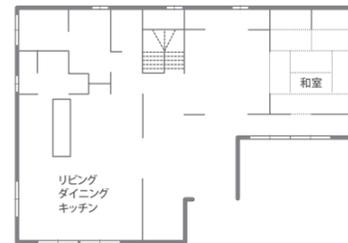


## 株式会社池田工務店

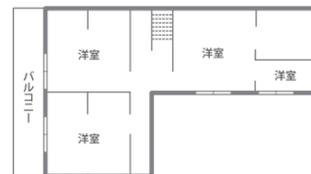
企業情報→P309

### >I邸Housing data

家族構成 / 夫婦+子ども2人  
 竣工 / 2008年3月 構造 / 木造軸組工法  
 延床面積 / 191.33㎡ (57.98坪)  
 1F / 126.35㎡ (38.28坪)  
 2F / 64.98㎡ (19.70坪)  
 土地 / 約87坪 (新規購入)



1F



2F



玄関正面の丸窓は障子越しに光が伝わり、壁のこちら側にもやさしい光を届ける。まるで旅館の風情。

special house CASE

# 110

## 職人技を集結させて挑んだ本物志向の家。

歳月を経るほどに味わいを増す和風建築。職人たちの技術を集結させた一棟は、住み続けるほどにその良さを体感できることでしょう。



L字型になったLDKに、畳空間もプラスされ、家族みんなの憩いの場はゆったり広々。テレビボードの造作も見事。

ツヤのある御影石の玄関を入ると、正面には丸窓が現れ、広い廊下が奥につながっています。天井、靴箱、腰板など見渡す限りに杉の美しい木目が点在し、重厚感ともにおもてなしの心が宿る玄関です。

この玄関に象徴されるように、1邸は材木などすべてに本物を用いた上質な家。築6年以上経って味わいが増している今の様子を見れば、本物を使うことの重要性がわかります。

「さんが池田工務店に出したオーダーは、和風建築でした。」「何十年経っても飽きないデザイン」「住み続けるほどに味が出る」というのがその理由。依頼を受けた池田工務店は、技術力をもつ職人集団。匠の技を集結し、細部に渡って職人技を惜しみなく披露しています。例えば杉の一枚板を使った玄関の天井や丸窓の細工など、女人が唸るような仕上げ。池田専務はこういった昔ながらの家づくりの技術を継承していきたいと熱く語ってくれました。

家づくりには湿式工法と乾式工法があり、最近では圧倒的に乾式工法がシェアを占めているとか。湿式工法は土壁などの材料を使う方法。手間はかかりますが、材料の種類や調査方法でさまざまな質感を楽しめます。一方乾式工法は、工場生産されたパネルや合板などを現場で取り付ける工法。工期が短縮され、施工も簡単なのです。

しかし、1邸は土壁の湿式工法にこだわりました。左官職人が塗り、自然の風で乾燥させ、また塗り重ねる…。時間をかけてゆっくりと仕上げているのです。

職人の情熱と匠の技で作りに上げた1邸は、伝統技法を用い、見えないところまで本物にこだわった一棟です。